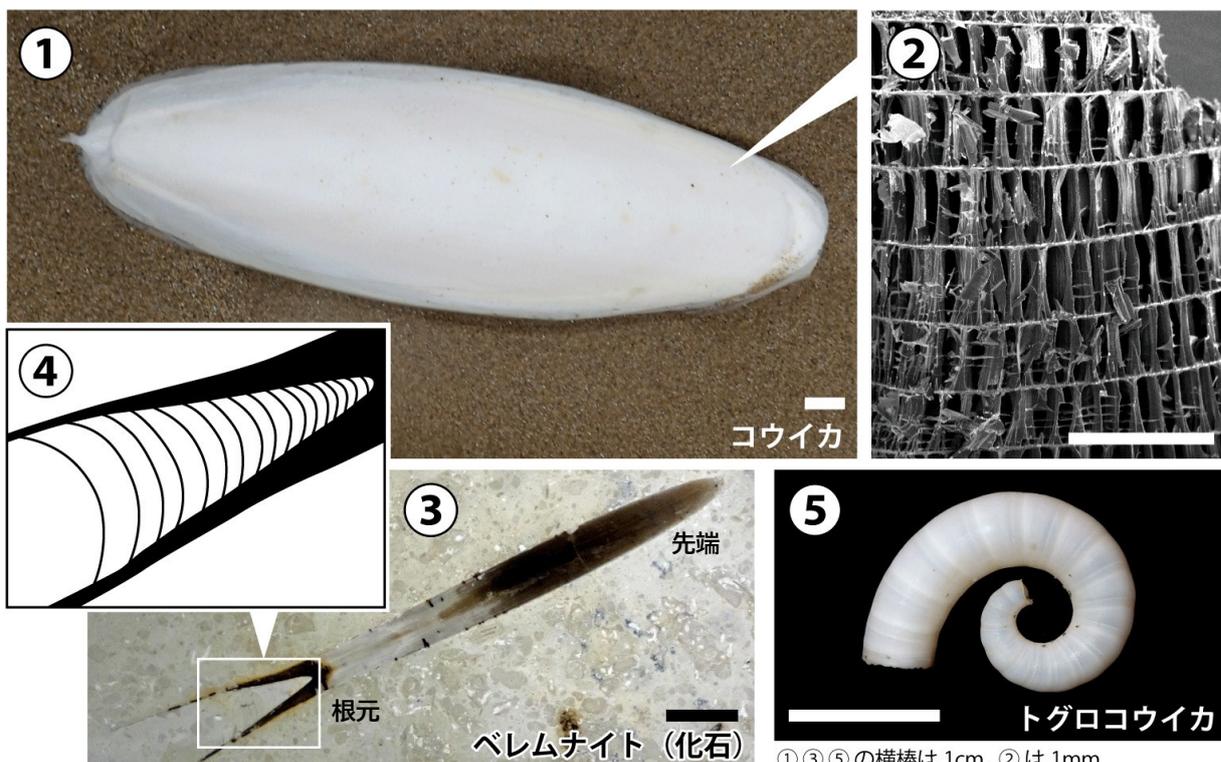


# イカの骨

海岸でサーフボードを小さくしたような白い骨のようなもの（写真①）を見たことはありませんか？これはコウイカというイカの骨です。手にとると発泡スチロールのように軽く、力を入れると簡単に割れてしまいます。断面を拡大すると、細かく仕切られた隙間だらけの構造になっているのがわかります（写真②）。隙間にはガスがたまっていて、生きている間は浮力の調節に役立っています。死んだあとも腐らず残るので、水面に浮かび、岸まで波が運んでくるのです。

コウイカのほかに立派な骨を持つイカの仲間がいます。写真③は、恐竜時代の海にすんでいたベレムナイトの化石です。ロケットのような形の骨が特徴で、石材として使われる石灰岩に入っていることがあるため、ビルの壁面などでも見かけます。尖った先端は硬く緻密ですが、根元の部分には仕切りがいくつも並んだ構造があります（図④）。この隙間にもやはりガスが入っていて、浮力調節に使われていたと考えられています。

実はこれらイカの骨、化石でおなじみアンモナイトの殻と起源は同じ。浮力調節という機能も同じなのです。もともと体の外にあった殻を体の中に取り込んだのが、イカの骨なのです。低緯度の深海にすみ、日本では太平洋側でまれに漂着するトグロコウイカの殻（骨）はまさにアンモナイトそっくり（写真⑤）。イカの骨を見ていると、大昔のアンモナイトも身近な生き物に感じられませんか？（吉岡 翼）



①③⑤の横棒は1cm、②は1mm

今月のかがくのギモン：殻をもつタコ「アオイガイ」の殻は何のためにある？

（答えは当館ホームページを見てください）